



平成30年5月2日

各位

上場会社名 愛眼株式会社
 代表者 代表取締役社長 下條 三千夫
 (コード番号 9854)
 問合せ先責任者 取締役経営企画室長 菅野 忠司
 (TEL 06-6772-3730)

業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成29年5月12日に公表いたしました平成30年3月期の連結業績予想を下記のとおり修正するとともに併せて特別損失の計上をお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	16,659	94	177	68	3.55
今回修正予想(B)	16,344	239	317	181	9.34
増減額(B-A)	△314	144	139	112	
増減率(%)	△1.9	153.2	78.2	162.7	
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	15,957	△51	11	△390	△20.11

修正の理由

(1) 平成30年3月期の業績予想数値の修正について

通期の連結業績予想につきましては、売上高は販売促進面の強化等の売上浮上施策を講じたものの、閉店店舗の増加や低価格帯商品の販売数量の減少等が影響し、当初の予想を下回る見込みとなりました。

一方、利益面では売上高の減少が利益の圧迫要因となりましたが、改装計画の見直し、不採算店舗の閉店や広告宣伝費の削減等、販売費及び一般管理費の削減に取り組んだ結果、営業利益、経常利益ともに当初の予想を上回る見込みとなりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、下記(2)特別損失の計上に記載のとおり、当第4四半期連結会計期間において、新たに減損損失54百万円を特別損失として計上する見込みとなりましたが、前述の販売費及び一般管理費の削減の効果により当初の予想を上回る見込みとなりました。

このような状況を踏まえ、平成30年3月期通期の連結業績予想数値を修正いたします。

(2) 特別損失の計上

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当第4四半期連結会計期間に54百万円の減損損失を計上する見込みであります。その結果、平成30年3月期通期におきましては減損損失59百万円を計上する見込みであります。

※上記の予想数値につきましては、発表日現在における入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上